

第 4 次吹田市地域福祉計画骨子案・計画案 対照表

骨子案（資料27（令和元年度末時点））	計画案（資料40（令和3年4月21日時点））																																																															
<p>5 計画策定の取組</p> <p>(1) 地域福祉に関する実態調査の実施</p> <p>本計画の策定にあたって、市民の方々を対象に<u>地域福祉に関するアンケート調査</u>を実施しました。調査の概要や結果については次のとおりです。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p> <p>ア. 回答者の属性</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p> <p>(追加)</p> <p>(追加)</p>	<p>5 計画策定の取組</p> <p>(1) 地域福祉に関する実態調査の実施</p> <p>本計画の策定にあたって、市民の方々を対象に「<u>吹田市民の地域福祉に関する実態調査</u>」（以下「<u>市民アンケート</u>」といいます。）を実施しました。調査の概要や結果については次のとおりです。<u>なお、調査結果については「吹田市民の地域福祉に関する実態調査報告書」として、市ホームページに掲載しています。</u></p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p> <p>ア. 回答者の属性</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p> <p>【居住地別 年齢】</p> <table border="1"> <caption>居住地別 年齢 (%)</caption> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>30歳未満</th> <th>30～39歳</th> <th>40～49歳</th> <th>50～59歳</th> <th>60～69歳</th> <th>70～79歳</th> <th>80歳以上</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JR以南地域 (n=101)</td> <td>12.9</td> <td>10.9</td> <td>15.8</td> <td>11.9</td> <td>15.8</td> <td>20.8</td> <td>11.9</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>片山・岸部地域 (n=164)</td> <td>10.4</td> <td>12.2</td> <td>14.6</td> <td>15.2</td> <td>16.5</td> <td>19.5</td> <td>11.6</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>豊津・江坂・南吹田地域 (n=181)</td> <td>9.9</td> <td>20.4</td> <td>16.6</td> <td>16.6</td> <td>15.5</td> <td>13.8</td> <td>7.2</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>千里山・佐井寺地域 (n=179)</td> <td>9.5</td> <td>15.1</td> <td>17.3</td> <td>17.3</td> <td>17.9</td> <td>16.2</td> <td>6.7</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>山田・千里丘地域 (n=258)</td> <td>8.9</td> <td>8.5</td> <td>17.4</td> <td>15.5</td> <td>19.8</td> <td>21.7</td> <td>7.4</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td>千里ニュータウン・万博・阪大地域 (n=220)</td> <td>7.3</td> <td>11.8</td> <td>17.3</td> <td>14.1</td> <td>15.9</td> <td>19.1</td> <td>14.5</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ. 調査から見てきた課題など</p> <p>市民アンケートの結果から、地域福祉に関する市民の思いや課題と考えられる内容などを把握しました。ここでは、把握した内容のうちから特徴的なものについて示します。</p>	地域	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	無回答	JR以南地域 (n=101)	12.9	10.9	15.8	11.9	15.8	20.8	11.9	0.0	片山・岸部地域 (n=164)	10.4	12.2	14.6	15.2	16.5	19.5	11.6	0.0	豊津・江坂・南吹田地域 (n=181)	9.9	20.4	16.6	16.6	15.5	13.8	7.2	0.0	千里山・佐井寺地域 (n=179)	9.5	15.1	17.3	17.3	17.9	16.2	6.7	0.0	山田・千里丘地域 (n=258)	8.9	8.5	17.4	15.5	19.8	21.7	7.4	0.8	千里ニュータウン・万博・阪大地域 (n=220)	7.3	11.8	17.3	14.1	15.9	19.1	14.5	0.0
地域	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	無回答																																																								
JR以南地域 (n=101)	12.9	10.9	15.8	11.9	15.8	20.8	11.9	0.0																																																								
片山・岸部地域 (n=164)	10.4	12.2	14.6	15.2	16.5	19.5	11.6	0.0																																																								
豊津・江坂・南吹田地域 (n=181)	9.9	20.4	16.6	16.6	15.5	13.8	7.2	0.0																																																								
千里山・佐井寺地域 (n=179)	9.5	15.1	17.3	17.3	17.9	16.2	6.7	0.0																																																								
山田・千里丘地域 (n=258)	8.9	8.5	17.4	15.5	19.8	21.7	7.4	0.8																																																								
千里ニュータウン・万博・阪大地域 (n=220)	7.3	11.8	17.3	14.1	15.9	19.1	14.5	0.0																																																								

第4次吹田市地域福祉計画骨子案・計画案 対照表

骨子案（資料27（令和元年度末時点））	計画案（資料40（令和3年4月21日時点））
<p><u>イ. 相談や情報の入手などについて</u></p> <p>① 暮らしや健康・福祉についての具体的な相談相手</p> <p><u>暮らしや健康・福祉のことで相談する相手は、「いる」が81.8%、「いない」が17.0%となっています。また、相談相手が「いる」と回答した方について、具体的な相談相手は「配偶者」が61.8%で最も多く、次いで「友人・知人」「子供」「親」となっています。</u></p> <p><u>一方で、市役所の職員、社会福祉協議会の職員や民生委員・児童委員などの福祉関係の事業者・団体については、非常に低い割合となっています。</u></p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p> <p>② 暮らしや健康・福祉に関する情報の入手方法</p> <p><u>暮らしや健康・福祉に関する情報の入手先として、市が発信するものでは「市報すいた」が75.9%で最も多く、次いで「新聞」が23.1%、「市ホームページ」が17.6%となっています。</u></p> <p><u>地域団体や住民が発信するものでは、「自治会の回覧版や掲示板」が46.9%で最も多く、次いで「近隣住民のくちこみ」が19.1%となっています。</u></p>	<p>① 相談や情報の入手などについて</p> <p><u>「暮らしや健康・福祉についての具体的な相談相手」</u></p> <p><u>80%以上の人が「いる」と回答していますが、具体的な相談相手については「配偶者」が最も多く、次いで「友人・知人」「子供」「親」となっています。一方で、市役所の職員、また、社会福祉協議会の職員や民生委員・児童委員などの地域の身近な相談支援者については、非常に低い割合となっているため、家族や友人以外で気軽に相談できる存在として知ってもらえるよう、それぞれの役割や業務などについて周知・啓発を進めることが重要です。</u></p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p> <p><u>「暮らしや健康・福祉に関する情報の入手方法」</u></p> <p><u>市が発信するもので最も多いものは「市報すいた」で、世代を問わず見られています。次いで「新聞」となっていますが、年齢別でみると60歳代以上の回答者が70%以上を占めており、次いで「市ホームページ」では、30～59歳までの回答者が70%近くを占めています。</u></p> <p><u>地域団体や住民が発信するものでは「自治会の回覧版や掲示板」が最も多く、世代を問わず見られています。次いで「近隣住民のくちこみ」では、年齢別でみると40歳代と80歳以上の世代で多くの回答があります。</u></p> <p><u>情報の入手方法としては、現状では市報すいた、自治会の回覧版や掲示板は地域に浸透したものとなっていますが、今後は市ホームページなどのインターネットによる情報についても利用が進んでいくものと考えられます。</u></p>
<p><u>ウ. 近所付き合いについて</u></p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>	<p><u>(削除)</u></p>

第4次吹田市地域福祉計画骨子案・計画案 対照表

骨子案（資料27（令和元年度末時点））	計画案（資料40（令和3年4月21日時点））
<p><u>エ. 地域で暮らす中での問題等について</u></p> <p><u>① 地域生活の中で福祉について気になっていること</u> <u>地域生活の中で福祉について気になっていることでは、「ひとり暮らしの高齢者のこと」が42.9%で最も多く、次いで「高齢者世帯のこと」が36.4%、「寝たきりや病氣、認知症の方がいる世帯のこと」が26.5%となっています。</u></p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p> <p><u>② 地域生活の中で地域住民の交流について気になっていること</u></p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p> <p><u>③ 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（住民の主体的な取組）</u> <u>地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な住民の主体的な取組については、「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」が37.6%で最も多く、次いで「地域の問題を自分のこととして考えること」が32.9%、「自治会等が住民の身近なくらしの問題や安全・防犯等に取組むこと」が23.8%となっています。</u></p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p> <p><u>④ 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（自分ができること）</u></p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>	<p><u>② 地域で暮らす中での問題等について</u> <u>「地域生活の中で福祉について気になっていること」</u> <u>最も多い「ひとり暮らしの高齢者のこと」をはじめ、高齢者に関する回答が上位3つを占めています。一方で、「孤独死」「児童虐待」「障がい者（児）のいる世帯」「ひきこもり」「子育ての不安を抱えている世帯」に関することについても回答が多くなっており、地域生活における様々な問題が顕在化しているといえます。</u></p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p> <p><u>(削除)</u></p> <p><u>「地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（住民の主体的な取組）」</u> <u>住民の主体的な取組として、最も多かった回答は「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」、次いで「地域の問題を自分のこととして考えること」であり、年齢別でも世代を問わず回答されています。次いで「自治会等が住民の身近なくらしの問題や安全・防犯等に取組むこと」となっており、回答からは地域住民一人ひとりの意識や取組が重要であるという思いが伺えます。</u></p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p> <p><u>(削除)</u></p>

第4次吹田市地域福祉計画骨子案・計画案 対照表

骨子案（資料27（令和元年度末時点））	計画案（資料40（令和3年4月21日時点））
<p>⑤ 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（行政の主体的な取組） <u>地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な行政の主体的な取組については、「地域福祉活動や公共施設に関する情報提供の充実」が35.4%で最も多く、次いで「行政の施策をわかりやすく住民に知らせること」が35.1%、「支援が必要な方が地域で安心して暮らすための福祉サービスの充実」が26.3%となっています。</u></p> <p>オ. 地域活動やボランティア活動について</p> <p>① 自治会への加入状況 <u>自治会への加入状況では、「加入している」が53.5%で最も多く、「加入していない」が33.1%となっています。</u> 隣近所との付き合いの程度別でみると、「加入している」は“くらしのことで話し合ったり助け合っている”人で75.2%と最も高く、<u>近所付き合いがなくなるほど自治会への加入率も低くなっています。</u></p> <p>② 自治会への加入理由・加入していない理由 <u>～ 略 ～</u></p>	<p>「地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（行政の主体的な取組）」 <u>行政の主体的な取組としては、「地域福祉活動や公共施設に関する情報提供の充実」が最も多く、次いで「行政の施策をわかりやすく住民に知らせること」となっており、必要な情報を効果的に提供していただくことが重要であると考えます。また、次いで「支援が必要な方が地域で安心して暮らすための福祉サービスの充実」「暮らしや健康・福祉に関する相談窓口を充実させること」となっており、必要な情報の提供と合わせて、福祉サービスや相談窓口の充実が求められています。</u></p> <p>③ 地域活動やボランティア活動について <u>「自治会への加入状況」</u> 「加入している」が53.5%で最も多く、「加入していない」が33.1%となっています。 隣近所との付き合いの程度別でみると、「加入している」は“くらしのことで話し合ったり助け合っている”人で75.2%と最も高く<u>なっています。</u></p> <p><u>近所付き合いがなくなるほど自治会への加入率も低くなっており、地域でのつながりや助け合いの力を強くするためには、自治会加入率を向上させることが重要であるといえます。</u></p> <p><u>(削除)</u></p>

第4次吹田市地域福祉計画骨子案・計画案 対照表（主な地域福祉の取組のうち削除したものと及びその理由）

骨子案（資料27（令和元年度末時点））	計画案（資料40（令和3年4月21日時点））
<p><u>③ 地域活動への参加・取組状況</u></p> <p><u>地域活動への参加・取組状況については</u>、「参加していない」が61.6%で最も多いですが、参加している活動・取組では「自治会の行事」が20.8%で最も多くなっています。</p> <p>年齢別でみると、いずれの年代も「参加していない」が多いですが、次いで30～39歳は「子育て・育児サークル」（11.8%）、40～49歳は「PTA活動」（21.1%）が続いています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>	<p><u>「地域活動への参加・取組状況」</u></p> <p>「参加していない」が61.6%で最も多いですが、参加している活動・取組では「自治会の行事」が20.8%で最も多くなっています。</p> <p>年齢別でみると、いずれの年代も「参加していない」が多いですが、次いで30～39歳は「子育て・育児サークル」（11.8%）、40～49歳は「PTA活動」（21.1%）が続いています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>
<p><u>④ 地域活動に参加してよかったこと</u></p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>	<p><u>(削除)</u></p>
<p><u>⑤ 地域活動に参加していない理由</u></p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>	<p><u>(削除)</u></p>
<p><u>⑥ 地域活動に参加しやすくするために必要なこと</u></p> <p><u>地域活動に参加しやすくするために必要なことについては</u>、「活動に関する情報を積極的に発信すること」が30.9%で最も多く、次いで「気軽に相談できる窓口を設置すること」が23.6%、「活動できる拠点や場所を整備すること」が21.3%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>	<p><u>「地域活動に参加しやすくするために必要なこと」</u></p> <p>「活動に関する情報を積極的に発信すること」が30.9%で最も多く、次いで「気軽に相談できる窓口を設置すること」が23.6%、「活動できる拠点や場所を整備すること」が21.3%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>

第4次吹田市地域福祉計画骨子案・計画案 対照表（主な地域福祉の取組のうち削除したもの及びその理由）

骨子案（資料27（令和元年度末時点））	計画案（資料40（令和3年4月21日時点））
<p><u>⑦ 福祉ボランティア活動への参加・取組状況</u></p> <p><u>福祉ボランティア活動への参加・取組状況については</u>、「参加していない」が73.8%を占めていますが、参加している人では「赤い羽根共同募金等への寄附」が13.3%で最も多く、次いで「地域や公園の清掃活動」が4.8%、「子供の安全見守り活動」が3.2%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>	<p><u>「福祉ボランティア活動への参加・取組状況」</u></p> <p>「参加していない」が73.8%を占めていますが、参加している人では「赤い羽根共同募金等への寄附」が13.3%で最も多く、次いで「地域や公園の清掃活動」が4.8%、「子供の安全見守り活動」が3.2%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>
<p><u>⑧ 福祉ボランティア活動に参加していない理由</u></p> <p>福祉ボランティア活動に参加していないと回答した人に、参加していない理由をたずねると、「学業や仕事、家族の介護等で、活動に参加する時間がないから」が46.4%で最も多く、次いで「福祉ボランティア活動を知る機会がない（きっかけがない）から」が32.1%、「自身の健康面や体力に不安があるから」が25.0%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>	<p><u>「福祉ボランティア活動に参加していない理由」</u></p> <p>福祉ボランティア活動に参加していないと回答した人に、参加していない理由をたずねると、「学業や仕事、家族の介護等で、活動に参加する時間がないから」が46.4%で最も多く、次いで「福祉ボランティア活動を知る機会がない（きっかけがない）から」が32.1%、「自身の健康面や体力に不安があるから」が25.0%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>
<p><u>カ. 社会福祉協議会やCSWについて</u></p> <p><u>① 社会福祉協議会の認知状況</u></p> <p><u>社会福祉協議会の認知状況については</u>、「設置されていることを知らない」が49.4%で最も多くなっています。次いで「名前を知っているが、役割については知らない」が36.5%、「名前を知っており、役割についても知っている」が10.9%となっており、<u>両者をあわせた認知度は47.4%となっています。</u></p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>	<p><u>④ 社会福祉協議会やCSWについて</u></p> <p><u>「社会福祉協議会の認知状況」</u></p> <p>「設置されていることを知らない」が49.4%で最も多く、<u>また、「名前を知っているが、役割については知らない」は36.5%となっており、社会福祉協議会の認知度を向上させることが課題となっています。</u></p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>

第4次吹田市地域福祉計画骨子案・計画案 対照表（主な地域福祉の取組のうち削除したものと及びその理由）

骨子案（資料27（令和元年度末時点））	計画案（資料40（令和3年4月21日時点））
<p>② 社会福祉協議会の取組として知っているもの</p> <p><u>社会福祉協議会の取組として知っているものについては</u>、「特にない、わからない」が47.8%で最も多いですが、知っているものでは「赤い羽根共同募金」が28.6%で最も多く、次いで「社協だより、こども社協だよりの発行」が20.4%、「地区福祉委員会が行う小地域ネットワーク活動への支援」が16.8%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>	<p><u>「社会福祉協議会の取組として知っているもの」</u></p> <p>「特にない、わからない」が47.8%で最も多いですが、知っているものでは「赤い羽根共同募金」が28.6%で最も多く、次いで「社協だより、こども社協だよりの発行」が20.4%、「地区福祉委員会が行う小地域ネットワーク活動への支援」が16.8%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>
<p>③ CSWの認知状況</p> <p><u>CSWの認知状況については</u>、「配置されていることを知らない」が79.8%で最も多くなっています。次いで「配置されていることは知っているが、役割までは知らない」が10.3%、<u>「配置されていることを知っており、役割についても知っている」</u>が5.2%であり、<u>両者をあわせた認知度は15.5%となっています。</u></p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>	<p><u>「CSWの認知状況」</u></p> <p>「配置されていることを知らない」が79.8%で最も多く、次いで「配置されていることは知っているが、役割までは知らない」が10.3%<u>となっています。</u></p> <p><u>社会福祉協議会の認知度と合わせて、地域の身近な「生活・福祉の相談員」として活動するCSWの認知度を向上させることは重要な課題となっています。</u></p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>
<p>④ CSWに期待すること</p> <p><u>CSWに期待することについては</u>、「特にない、わからない」が55.7%で最も多いですが、期待することがある人では「CSWの周知に力を入れてほしい（配置場所、活動内容等）」が22.9%で最も多く、次いで「身近な地域で相談する機会を設けてほしい」が13.7%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>	<p><u>「CSWに期待すること」</u></p> <p>「特にない、わからない」が55.7%で最も多いですが、期待することがある人では「CSWの周知に力を入れてほしい（配置場所、活動内容等）」が22.9%で最も多く、次いで「身近な地域で相談する機会を設けてほしい」が13.7%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>

第4次吹田市地域福祉計画骨子案・計画案 対照表（主な地域福祉の取組のうち削除したものと及びその理由）

骨子案（資料27（令和元年度末時点））	計画案（資料40（令和3年4月21日時点））
<p><u>キ</u> 成年後見制度について</p> <p>① 成年後見制度の認知状況</p> <p><u>成年後見制度の認知状況については</u>、「ことばは聞いたことがあり、制度のことも知っている」と「ことばは聞いたことがあるが、制度のことは知らない」がそれぞれ36.0%で最も多く、両者をあわせた認知度は72.0%となっています。一方、「ことばも制度も知らない」が25.6%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p> <p>② 成年後見制度の利用意向</p> <p><u>成年後見制度の利用意向については</u>、「必要になれば利用したい」が39.5%で最も多く、「将来に備えて後見人を選んでおきたい」（2.8%）と「必要になれば利用したい」をあわせた利用意向がある人は42.3%となっています。</p> <p>年齢別でみると、「利用したいとは思わない」は年齢が上がるほど割合が高く、80歳以上（34.9%）で最も高くなっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p> <p>③ 援助者になってほしい人</p> <p>成年後見制度の利用意向がある人に、援助者になってほしい人についてたずねると、「家族・親族」が77.1%で最も多く、次いで「専門職（弁護士・司法書士など）」が34.7%、「法律または福祉に関する法人」が13.5%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>	<p>⑤ 成年後見制度について</p> <p><u>「成年後見制度の認知状況」</u></p> <p>「ことばは聞いたことがあり、制度のことも知っている」と「ことばは聞いたことがあるが、制度のことは知らない」がそれぞれ36.0%で最も多く、両者をあわせた認知度は72.0%となっています。一方、「ことばも制度も知らない」が25.6%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p> <p><u>「成年後見制度の利用意向」</u></p> <p>「必要になれば利用したい」が39.5%で最も多く、「将来に備えて後見人を選んでおきたい」（2.8%）と「必要になれば利用したい」をあわせた利用意向がある人は42.3%となっています。</p> <p>年齢別でみると、「利用したいとは思わない」は年齢が上がるほど割合が高く、80歳以上（34.9%）で最も高くなっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p> <p><u>「援助者になってほしい人」</u></p> <p>成年後見制度の利用意向がある人に、援助者になってほしい人についてたずねると、「家族・親族」が77.1%で最も多く、次いで「専門職（弁護士・司法書士など）」が34.7%、「法律または福祉に関する法人」が13.5%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>

第4次吹田市地域福祉計画骨子案・計画案 対照表（主な地域福祉の取組のうち削除したものと及びその理由）

骨子案（資料27（令和元年度末時点））	計画案（資料40（令和3年4月21日時点））
<p>④ 成年後見制度を利用したいと思わない理由</p> <p>成年後見制度を利用したいと思わないと回答した人に、その理由をたずねると、「制度を使わなくとも家族がいる」が74.9%で最も多く、次いで「他人（家族・親族を含む）に財産などを任せることが心配」が18.6%、「手続きが大変そう」が14.0%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>	<p>「<u>成年後見制度を利用したいと思わない理由</u>」</p> <p>成年後見制度を利用したいと思わないと回答した人に、その理由をたずねると、「制度を使わなくとも家族がいる」が74.9%で最も多く、次いで「他人（家族・親族を含む）に財産などを任せることが心配」が18.6%、「手続きが大変そう」が14.0%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>
<p>⑤ 成年後見制度が利用しやすいものとなるために重要なこと</p> <p><u>成年後見制度が利用しやすいものとなるために重要なことについては</u>、「制度内容を知る機会が充実すること（パンフレットや説明会など）」が49.7%で最も多く、次いで「制度利用の方法などに関して、身近な相談窓口があること」が34.8%、「制度を利用するための手続きなどの複雑さが解消されること」が31.8%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>	<p>「<u>成年後見制度が利用しやすいものとなるために重要なこと</u>」</p> <p>「制度内容を知る機会が充実すること（パンフレットや説明会など）」が49.7%で最も多く、次いで「制度利用の方法などに関して、身近な相談窓口があること」が34.8%、「制度を利用するための手続きなどの複雑さが解消されること」が31.8%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>
<p><u>ク</u> 災害から生命を守る取組等について</p> <p>① 防災に関する取組や情報について知っているもの</p> <p><u>防災に関する取組や情報について知っているものについては</u>、「災害時の避難所」が78.7%で最も多く、次いで「防災ハンドブック・洪水ハザードマップ」が58.9%、「避難勧告などの緊急速報メール」が38.2%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>	<p>⑥ 災害から生命を守る取組等について</p> <p>「<u>防災に関する取組や情報について知っているもの</u>」</p> <p>「災害時の避難所」が78.7%で最も多く、次いで「防災ハンドブック・洪水ハザードマップ」が58.9%、「避難勧告などの緊急速報メール」が38.2%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>

第4次吹田市地域福祉計画骨子案・計画案 対照表（主な地域福祉の取組のうち削除したものと及びその理由）

骨子案（資料27（令和元年度末時点））	計画案（資料40（令和3年4月21日時点））
<p>② 大阪府北部地震の前後での地域の助け合い活動に対する関心度の変化 <u>大阪府北部地震の前後での地域の助け合い活動に対する関心度の変化については</u>、「変わらない」が44.7%で最も多く、次いで「関心度が高まった」が43.3%、「もともと関心をもっていない」が5.4%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>	<p><u>「大阪府北部地震の前後での地域の助け合い活動に対する関心度の変化」</u> 「変わらない」が44.7%で最も多く、次いで「関心度が高まった」が43.3%、「もともと関心をもっていない」が5.4%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>
<p><u>ケ. 再犯防止の取組等について</u></p> <p>① 再犯防止に関する民間協力者や取組で知っているもの <u>再犯防止に関する民間協力者や取組で知っているものについては</u>、「保護司」が49.2%で最も多く、次いで「更生保護施設」が33.1%となっており、「知っているものはない」は31.8%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>	<p>⑦ 再犯防止の取組等について <u>「再犯防止に関する民間協力者や取組で知っているもの」</u> 「保護司」が49.2%で最も多く、次いで「更生保護施設」が33.1%となっており、「知っているものはない」は31.8%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>
<p>② 再犯や再非行を防止するために必要なこと <u>再犯や再非行を防止するために必要なことについては</u>、「就労が確保されること」が68.5%で最も多く、次いで「住居が確保されること」が49.7%、「就学を支援すること」が41.9%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>	<p><u>「再犯や再非行を防止するために必要なこと」</u> 「就労が確保されること」が68.5%で最も多く、次いで「住居が確保されること」が49.7%、「就学を支援すること」が41.9%となっています。</p> <p style="text-align: center;">～ 略 ～</p>